

令和4年度全国農業大学校等意見発表要旨

農業大学校名 徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校

学科名 農業生産技術コース 学年 1 年 氏名 池村 駿 佑
いけむら しゅんすけ

1 課 題 地産地消から知産知消へ

2 意見・提言

(1) 私の目標とその思い

私は、農業の文化を地域に広げ、より身近に感じてもらうような事業に取り組んでみたいと考えています。そして、地域住民や消費者に農業の重要性をもっと知ってもらいたいと思っています。

(2) 消費者が想像する農業のイメージ

私は、多くの消費者が考えている農業と現実の農業にギャップがあるのではないかと考えています。私はかつて、値段ばかり気にして食品を購入していました。しかし、農業高校や農業大学校で農業を学び農産物の栽培方法や流通、販売の方法を知るうちに、一つのトマトにも農家の思いやこだわりがあると気づいたのです。

調べるうちに、私は『「食」と「農」の分断』という問題が農業と消費者の間にあるのではないかと考えました。そして、農産物の背景を知ろうとしない限り、「食」と「農」の溝を埋めることはできないと私はと思っています。

(3) 農家の声と消費者の理解

「食」と「農」の分断を埋めることが地域農業には必要です。多くの農家は、周辺地域に非常に気をつかいながら農作業を行っています。農家が農業をしやすい環境を整えるには、何よりも地域住民との相互理解が大切です。消費者に農業生産の現場に目を向け、農家の声に耳を傾けてほしいのです。農家にも、消費者の目線に立って農作業や農産物の出来栄を見つめなおし、消費者からの意見も参考にしてほしいと思います。

(4) 徳島農大「そらそうじゃ」の活用

「そらそうじゃ」では、農産物や加工品を地域住民に向けて販売したり、農業体験サービスなどを行っています。それが、「食」と「農」の意識を地域住民に持ってもらうために活用できるのではないかと考えています。

(5) 私が考える、「食」と「農」の理解を深めるための事業

農作業をアルバイトとして地域住民に紹介し、一緒に働いてもらうという事業です。これは、農家の労働力不足を補い、農産物の生産力の強化を見込め、農家と消費者の相互理解を高めるために有効だと考えています。

(6) 将来について

将来は農業法人に就職し、経験を積んだ後、トマト農家になろうと思っています。そして、一人の生産者として「食」と「農」の重要性を伝えていきたいと思っています。